

## 新春法話

### 「お地藏さんのご利益」りやく

明けましておめでとうございます。

平成最後の新年を迎え、ご参拝の皆様におかれましても感慨深い、一年の始まりを迎えたことと思います。正光寺においては、室町幕府三代將軍足利義満の治世の応永六年、当地に一体の恵心僧都御作の延命子安地藏菩薩が安置されて、六百二十年の節目の年となります。この記念の年に、初詣期間中特別にご本尊を開帳することにしました。

正光寺のご本尊様の正式名を「腹籠延命子安地藏菩薩」（ふくろうえんめいこやすじぞうぼさつ）といい、金色の地藏菩薩の腹部が開腹する形となっており、その胎内に五分の程度の彩色の地藏菩薩が安置されているという全国的にも珍しい仏像となっています。尊像の形は左手に福德を授ける如意宝珠を持ち、右手に錫杖を握り、蓮華の台座から今にも立ち上がるうとしています。お釈迦様が亡くなりしあと、次の仏様として弥勒菩薩がこの世に顕在されるまで約五十六億年は無仏の時代となり、お釈迦様が残した教えにおいてしか人々を救済することができないと言われました。そこで地藏菩薩はお釈迦様に、無仏の時代「自己の修行も大事だが、私はこの世で苦しむ人々の所に赴き、安心を与え仏の世界に導く」と誓いました。そして人々に不信を抱かれず近づけるようにするため、髪を剃髪し宝飾品を身に纏わずしてこの世のどこへでも行く決意を示し、まさに今立ち上がるうとしている様を表した尊像となっています。

ですから地藏菩薩のご利益（りやく）の第一は、苦しむ人々からその苦しみを代わって受け、安らぎが授かれるということです。安産であれば子を産む苦しみを、病に苦しむ人々からはその苦しみを、何か目標を持つて努力している人々が、思い通りにことが運ばず苦しんでいるときにはその苦しみを地藏菩薩は一身に受け、人々の心に安らぎを施します。安らぎを授かった人たちは、もはや苦しみで心が惑わされなくなり、落ち着きをもって各々の願いを成就させるといわれています。

特に正光寺の地藏菩薩のご利益は、「延命」と「子安」です。「延命」とは単に長寿を意味するのではなく、命の質 生きがいを持つて心豊かな一生になるよう質を高めるとのこと。「子安」とは、か弱い子供の命を守るとのことです。是非ともご本尊様に手を合わせ、信心を深めていただきご利益を授かっていただきたいと思います。

但しご利益というものは、それは物質的に目に見える形として授かるものではありません。ご利益とは心の豊かさ、安心を得られるということなのです。目に見える形を求めることは利益（りやく）であって、それは自己の努力の如何によってもたらされるものです。

これからの時代、技術革新や人口知能によるロボットが活躍し今まで以上に、急激に便利になっていく一方で、人と人との付き合いが希薄になり、気付くと孤独が増す社会になると危惧されています。しかしいつの時代も この世は一人で生きるのではなく、お互いが支えあって生かされていくことには間違いがありません。地藏菩薩の御心、慈悲なる仏心は、実は私たちの心にも宿っています。ご利益を授かることも大事ですが、私たちも地藏菩薩の御心のように苦しむ人々に利益を授けることができるということを自覚し行えば、私たちは本当に心豊かな人生を過ごせることでしょう。

今年一年皆様の心豊かに過ごせますようご祈念申し上げ、新春法話とさせていただきます。

合掌

平成三十一年 己亥元旦

延命山正光寺 住職 高野隆 晃